

新潟生活

niigata seikatsu 第30号 2017年3月発行

目次 教えて先輩! ● 乙でしかできない『おもてなし』
 変わらない料理人になるという夢
 特集 ● 自分らしい暮らし方を見つけよう にいがた鳥暮らし

～ お子様帰省された際に親子で将来を話し合ってみてください～

教えて先輩!
vol.57

乙でしかできない『おもてなし』

本気で遊び、本気で学ぶ

実家の乙まんじゅうやは創業212年を伝え、私は11代目を継がせてもらっていますが、子どもの頃の夢は塾講師でした。意外に思われることもありますが、両親から家業を継いでほしいと言われたことはありません。そのため大学は、教育に力を入れている県外の大学に進学し、夢だった塾講師のアルバイトを始めました。母からは「勉強もいけど、せっかく大学に行くんだから本気で遊びなさい」と言われ、寝る時間を削って本気で遊びました。やり尽くせはしませんが、その時しかできないことは本気になってやったので、大学生生活は本当に楽しかったです。

お叱りを受けて 自社の役割に気づく

就職は両親から他社で働くことを勧められたこともあり、学習塾に就職しました。その後2012年にUターン。当初はモヤモヤした気持ちを抱えながら働いていました。伝統を守ってまんじゅうを作ることは周りの幸せに貢献することだけど、他のお店でもできるんじゃないかと思っただけです。仕事とは「志を持って、社会に貢献する」ことだと思っていたのに、まんじゅうを作って売ってだけでいいんだらうか、地元はこんなに閑散としているのに、ただ同じことを繰り返す日々でいいんだらうかと。

そんな時、乙まんじゅうに米粉をまぶした揚げまんじゅうを新商品として販売することになりました。喜ばれると思っていたら、「伝統を壊す気なのか」とお叱りを頂いてしまって…。けれど諦めなかったおかげで、半年かけてやっと認めていただけるようになりました。徐々に

気持ちにも余裕が出て、乙まんじゅうやという存在はスペシャルだと分かったんです。新商品が出てお叱りを受ける店って多分うち以外にはなく、212年間も変わらず買い求めてもらえるお菓子なんてない気付くことができました。200年前のように人が行き交うような乙を目指して、ここでしかできないおもてなしをやっていくことが、弊社の役割だと考えています。

■乙まんじゅうや HP
<http://www.kinoto-manju.jp/>



久世 俊介さん (28歳) 「乙まんじゅうや」11代目 和菓子職人

地域
胎内市

胎内市(旧中条町乙地区)出身。3兄弟の長男。子どもの頃から店番や配達など家の手伝いをしながら育つ。中学生の頃に通っていた学習塾の講師に憧れ、夢は塾講師になった。大学進学後、勉強と遊び・塾講師のアルバイトに全力で取り組む4年間を送り、卒業後は学習塾に就職。2012年にUターンし、11代目として乙地区に足を運んでくださる方におもてなしの気持ちを伝えるべく奮闘中。

教えて先輩!
vol.58

変わらない料理人になるという夢

ただただ、東京に行きたい

子どもの頃から食べることが大好きで、卒業文集に「将来の夢は料理人」と書いていました。進学した県立海洋高等学校では、航海研修を体験。船酔いに苦しみましたが、自分たちで獲ったマグロの美味しさを味わったり、夜空に広がる光の世界は本当に幻想的で、一般の高校生では体験できないような高校生活を送りました。

この機会を逃したら2度と東京に行くことはないだろうと思い、卒業後は東京の調理師専門学校に進学しました。ただただ、東京に行ってみたかったです。都会の暮らしは快適そのものですが、同じクラスの三条市出身の子としょっちゅう新潟あるあるを話して、懐かしく思っていました。

嬉しいことも、辛いことも直球

就職は東京に残ることも考えましたが、四季折々の楽しさを覚えていたから、「糸魚川に

帰りたい」と素直に思いました。就職活動は新潟の情報が少ない苦労しましたが、先生から上越市に本店がある割烹を紹介してもらい、卒業後は上越市で働くことが決まりました。上越での日々は毎日が修行で、限られた時間の中で段取り良く動くことは難しく、「誰が次に何をするか予想し、自分は何を準備しておくか、どう動くか」を考えながら働きました。

1年半ほど基礎を身につけてきた頃、「自分でも一通りのことがやってみたい」という思いが湧き、地元糸魚川の「高浪の池」でマルチな料理人として挑戦することにしました。今までは親方がいてアドバイスをもらうことができたのですが、今は自分で考え、決めなくてはいけま

せん。何をすることも挑戦で、お客様からの評価は嬉しいことも、辛いことも直球です。でも、東京や上越にいた時よりも何倍もできることが増えました。私のもっともっと糸魚川を盛り上げたいと思っていますし、自分の料理をきっかけにして「高浪の池」にたくさんの方が足を運んでくれたら嬉しいです。

■高浪の池 HP
http://www.itoigawa-kanko.net/spot/takana_minoike/



伊藤 大貴さん (21歳) 高浪の池 料理人

地域
糸魚川市

糸魚川市出身。子どもの頃から食べることが大好きで卒業文集に「料理人になりたい」と書き残す。県立海洋高等学校に進み、日本一周やロシア航路を回る研修を受けたり、操船を学ぶ。料理人になる夢を叶えるため、東京の調理師専門学校に進学し、卒業後は上越市の割烹で一人前の料理人になるべく朝から晩まで修行。2016年糸魚川市にUターンし、「高浪の池」料理人としてお客様をもてなしている。

にいがた島暮らし



全国の島々があつまる祭典「アイランダー」が開催されるなど、今注目を集める島暮らし。新潟県には佐渡島・粟島がありますが、風土も違えば文化も違い、それぞれ異なる魅力をもっています。魅力的な部分は移住の大きな決め手になりますが、実際に気になるのは、やっぱり「仕事」ですね。今回は、それぞれの島で暮らすお二人に「島で見つけた働き方」をお聞きました。



「特別な人ではない私が入りこむ隙間はたくさんある」

佐渡市在住
熊野礼美さん

兵庫県出身。大学卒業後、関西を中心に日本語教師や教材販売の営業などに従事。趣味の登山がきっかけで2014年初めて佐渡へ来島。その年、佐渡市地域おこし協力隊に応募、晴れて隊員として佐渡に移住。隊員活動の傍ら、シェアスペース「ひょうご屋」の改装にも奔走中！
ひょうご屋Facebook <https://www.facebook.com/hyogoya/>



「箱」ではない暮らしを求めて

佐渡に来る前、私は教材販売の営業職についていました。仕事は忙しいながらも大変充実し、仕事を通して自己実現をしていたと思います。しかし、30代に入り「この生活に『暮らし』があるのか」と悩みや不安が薄く積もっていきました。



結婚し、2人で楽しい暮らしを夢見て借りた部屋も、仕事が忙しい時期は連日終電という日が増え、新居は寝に帰るだけのただの『箱』になってしまいました。

そんな時、趣味の登山でたまたま訪れた佐渡の景色を思い出し、「あの景色の中で暮らしてみたい。『箱』ではない暮らしがあるかもしれない」と思うように。縁もゆかりもない場所で、コネクションをもっていない自分が佐渡で暮らすにはどうしたらいいだろう？と考えた結果、職・住が提供される佐渡市地域おこし協力隊に応募することにしました。

協力隊の仕事は多岐にわたり、私は空き家対策移住者支援を担当しています。具体的には移住セミナーでの対応や、島内の空き家相談・調査など。佐渡の人と佐渡への移住を考える人、双方の翻訳者のような仕事だと思っています。

私の生活を変える空き家を手に入れた！

空き家調査中に出会った1件の家が、私自身の生活を大きく変えることとなりました。外観はトタンの錆に覆われ、「いかにも空き家」な雰囲気の家は、引き戸を開けると、使い込まれた美しい木が現れ、建てられた頃にタイムスリップしたようでした。屋号は「兵庫屋」。

兵庫県出身の私は運命を感じずにはいら



れません。「ここだ！」そう思った私は、「はい、買います。」と手を挙げました。

その後、床張り・障子張りなどのDIYワークショップを行いながら改装を続け、地域のイベントに便乗した古民家☆デパート（フリマ）・ミニシアターひょうご館を開いたり、少しずつ地域に関わっています。

私がここでつくりたいのは、「課題解決をしながら楽しいことを探しに来ました！」という人・情報・縁が集まるコミュニティです。そのためにはまず、「自分が楽しめない」という気持ちで行なっています。私の任期は残り1年ですが、移住の相談もひょうご屋で続ける予定で、空き家の修復や地域との付き合い方など、この3年間の経験は私の後に続く移住希望者の方にとって、きつと役に立つはずだと思っています。

「複業をする」という考え方はとても普通のこと

企業に属さず自分で仕事ができる人は、特別な人だと思っていました。しかし、今自分がやろうと思っていることはまさに「自分で仕事をつくる」そのもの。私は何も専門的な知識を身に付けていないし、優れた技術もノウハウもありません。それでも私はやってみようと思っています。

移住相談やひょうご屋オーナー以外にもやりたいことがたくさんあり、そして佐渡には入りこむ隙間もたくさんあります。そもそも複数仕事を持つ人が多く、自分が「複業をする」という考えに至るのはとても普通のことになりました。

求人票だけ見ると、「うわ、今までの7割くらいしかない」と思うでしょう。でも複業スタイルの人はたくさんいて年取+「何か」をしている人も多くいます。ちなみに私は神戸時代より年収は半分になりましたが、暮らしは充実していますよ。



佐渡市

周囲約281km、東京23区の約1.4倍の面積を有する日本海側最大の島です。四季の変化に富んでおり、夏は高温多湿で、冬は本土より雪が降りません。豊かな土壌を活かした米作りをはじめとして、おけさ柿、ルレクチエ、りんごなどの果樹栽培や、佐渡牛などの畜産業も営まれています。また、漁業ではエビやブリなど様々な魚介類が水揚げされ、加茂湖や真野湾では牡蠣の養殖が盛んに行われています。絶滅危惧種となったトキの野生復帰を支える環境保全活動や、佐渡金銀山遺跡群などの文化遺産の世界遺産認定を目指した活動も活発です。
交通手段：【カーフェリー】新潟港⇄両津港、直江津港⇄小木港
【ジェットfoil】新潟港⇄両津港
【高速船】寺泊港⇄赤泊港



「日々の暮らしが私の働き方そのもの」

粟島浦村在住
青柳花子さん

新潟市出身。保育の専門学校卒業後、新潟市内の幼稚園で3年間勤務。迷いながらも「自分らしく暮らしたい。」と思い始めたころ、粟島に出会う。ゆったりとした「粟島時間」が心地よく、2013年に移住。2016年9月にゲストハウス「おむすびのいえ」をオープン！
おむすびのいえ <http://www.omusubihouse.com/>



自分らしく暮らせる場所

幼稚園教諭として働き始めて子どもたちの成長を感じる一方で、自分自身の成長を感じられず、人と比較して落ち込むことが増えるようになりました。「保育以外の経験を重ね、可能性を広げたい」と退職しましたが、想いとは裏腹に軸となるものが何もないことに気づきました。振り返ってみれば、自分で物事を決めるというよりは「〇〇ちゃんが言ったから」というように、周りと合わせることばかりの人生だったように思います。

「もっと自分らしく暮らせる場所を見つけたい」そんな思いを抱くようになってから、ふと「粟島」というワードが出てきたのです。行ったことも知り合いがいるわけでもないのに、そのワードが離れませんでした。

初めての粟島は噂通り何もなく、田んぼの真ん中で育った私には、海の香りや景色が新鮮でした。「粟島時間」と呼ばれるゆったりとした時間が流れ、何かと比較して落ち込むことも、自分を大きく見せることもなく過ごせた時間。「ここなら私らしく暮らせる何かがあるのかもしれない」と思い、粟島に移住することにしました。



私の心を鍛え直してくれるたくさんの優しさ

粟島にはいろんな地域・職種の方がやってきて、普段聞くことのない話に刺激を受けることがたくさんありましたが、外から来た人が地元の人と交流できる場所がありませんでした。「ここで交流が生まれたら、もっと島の暮らしに広がりが出るのにと、人が集まる場づくりがしたいという思いが溢れていきました。そんな時、住みびらき・小商い・カフェ…そのなかで、ゲストハウスというものを知りました。宿泊もできて、コミュニケーションの場が持てる…「これだ！」と確信しました。

ゲストハウスをやろう！と決めた後は物件探し～契約、資金準備、リノベーション…作業に追われる毎日にも焦ることもありました。けれど、DIYワークショップを企画してくれる人や、様子を見に来てくれる人、クラウドファンディングで応援してくれる人など

粟島浦村

周囲約23km、面積約9.86km²の新潟県の北の海に浮かぶ小さな島で、島のほとんどが深い緑に覆われています。漁業が盛んで、ヤリイカや真鯛、ヒラメなどが水揚げされ、中でも島の名物である大網網漁（だいぼうあみりょう）※では、真鯛やメジマクロなどが網にかかります。1964年に発生した新潟地震の際に土地が隆起したことにより、コメ作りができなくなりましたが、物々交換や助け合いの文化が続く人と人の結びつきが深い島です。また、海のアクティビティだけでなく、わっぱ煮体験などもできる「あわしま自然体験学校」の活動が始まり、粟島の楽しみ方に広がりを見せています。※大型定置網漁。粟島浦村では明治期から続く漁法で、毎年5月から7月にかけて行われる。
交通手段：【船】岩船港⇄粟島

たくさんの人たちの優しさが、負けてしまいそうな私の心を鍛え直してくれました。目指していた夏には間に合いませんでしたが、9月にオープンしてみたら、ゲストさんが少ない分ゆっくりお話ができて、「粟島」という小さな離島につながるストーリーを聞く時間が楽しくて仕方ありません。観光客は来ない！と言われる冬のシーズンですが、おかげさまでおむすびのいえには様々なゲストさんがやってきます。



自分自身を最大限に引き出せる暮らしが、粟島にはある

「稼ぐ」という表現を使うと多くの方からひかれるかもしれませんが、私はきちんと島で稼ぐことを目標にしています。未来を見据えてここで生活していけるようになれば、移住を悩んでいる人の背中を押すきっかけになるかもしれません。そして私のように「粟島で夢に向かって挑戦したいんです！」という人が出てくるかもしれません。そのために、きちんと自分のやりたかったことと生活が直結できるようになりたいのです。

私にとって「働く」ということは、「自分自身を最大限に引き出せること」だと思っています。ずっと「働く=仕事」だと思っていましたが、粟島で暮らしてから変化が生まれ、「働く=生きる」ことのように感じるようになりました。今は、日々の暮らしが私の働き方そのもので、だからこそ粟島が一番力を発揮できる環境なのだと思います。



新潟県U・Iターンコンシェルジュ

- 転職のエキスパートが、東京と新潟からあなたのU・Iターンを強かにサポートします!
- 豊富な新潟県内の企業情報をもとに、ご希望の仕事を見つけます!
- 住居や学校など生活に必要な情報を提供します!



あなたの
U・Iターンを
実現します!

新潟県へのU・Iターンをお考えの方、
まずは登録を!

登録は <http://www.niigata-uitc.com/>

または

お問い合わせ・お申し込み

新潟県U・Iターンコンシェルジュ事務局 株式会社パソナ パソナ・新潟
新潟事務局 / 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7番町1230-7 ストックビル鏡橋3階
TEL ● 025-374-7410 (平日 9:00~17:30)
東京事務局 / 〒100-8228 東京都千代田区大手町2-6-4 パソナグループ本社内
TEL ● 03-6734-1358 (平日 9:00~17:30)
Email ● k.niigata@pasona.co.jp

U・Iターン総合サイト「にいがた暮らし」を リニューアルしました!

新潟県へのUターンをお考えの方のお役に立つ情報がパワーアップしました。合同企業説明会などの仕事情報やU・Iターン者インタビュー、県や市町村の支援策情報などが、これまで以上に充実! 新潟県へのUターンに関する情報収集は、ここから始まります!



Uターン おすすめコンテンツ

▶ タイムリーな仕事情報を提供!

新潟県内企業が参加する合同企業説明会や県・市町村職員募集の情報を一覧でご案内しています。情報は随時更新!

▶ 300件を超えるインタビュー記事!

新潟にU・Iターンした先輩のインタビューやコラムから、UターンやIターン、地域、職種など、ジャンルを絞った検索ができるので、参考になるストーリーがみつかりやすい!

▶ 600件を超える支援策から検索!

県・市町村の支援策を、自治体名や仕事、住宅、結婚・子育てなどの種別から検索できます。U・Iターン者向け支援策の絞り込み検索も使いやすい!



または



Uターン情報誌

「新潟生活」と「新潟Uターン情報」をセットで無料送付しています。



新潟生活

- 新潟にU・Iターンした先輩の体験談
- 新潟の豊かな暮らしや魅力的な仕事の紹介 など

新潟Uターン情報

- 新潟県内企業の紹介
- 就職活動の動向
- 就職ガイダンスのお知らせ など

お申し込み・お問い合わせ

新潟県新潟暮らし推進課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
TEL025-280-5112(直通)

